

ヤマセミ

Ceryle lugubris

カワセミ科・留鳥

名前の由来

平安時代までカワセミのことをソビ、ソニといい、それが転じてセミとなった。山の溪流や湖などにすむ山のソビ(=セミ)であることからヤマセミという。

漢字名：山翡翠



ヤマセミ (円内も)

(イラスト：タカダヒロキ)

特定種

北海道レッドデータ：希少種 (R)

形態的特徴

全長(くちばしの先から尾の先まで) 38cm。カワセミ類中日本では最も大きく、ぼさぼさ頭のような長い冠羽が目立つ。体の上面は黒白の鹿の子まだらで下面は白く、オスでは胸に黄褐色の帯と黒い斑点があり、メスでは黒班が帯状

にある。

声：飛びながら「ケレケレ」とか「キャラ、キャラ」と鳴くことが多い。

生息環境・分布

山地の溪流や湖沼に生息する。

分布：カシミアル、アッサム、ミャンマー、インドシナ半島、中国南部、朝鮮半島に分布。

日本では北海道から九州の各地で留鳥か漂鳥として生息。

北海道では留鳥。繁殖する。河川の中・上流部、山間部の湖沼に生息する。冬には下流部の小河川にも飛来する。十勝地方では留鳥で、主に十勝川水系の山間部の溪流に生息する。

繁殖生態

繁殖期は3～8月。一夫一妻。

土質の崖にオスメス共同で横穴を掘って営巣する。

春に4～7個の卵を産む。抱卵日数は約20日、オスメス交代で行う。

代で行う。

育雛もオスメス共同で行い、32～36日でヒナは巣立つ。

興味深い話

■枝にとまって待ち伏せたり、空中でホバリング(停空飛翔)した状態から水中にダイビングして魚を捕らえる。その際に自分の羽毛を落とし、疑似餌として魚をおびき寄せるのに使うことがあるらしい。

■抱卵はオスメス共同で行うが、オスの方が多く、夜もオスが抱くという。

■十勝地方のアイヌ語では「アイヌサチリカムイ」という。

食性

5～20cmぐらいの川魚、カエル、サワガニ、昆虫類などを食べる。

配慮事項

繁殖には切り立った土壁が必要。

生活サイクル

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
十勝出現期												
					繁殖							

参考文献

「山溪カラー名鑑 日本の野鳥」高野伸二 編、浜口哲一・森岡照明・叶内拓哉・蒲谷鶴彦 著、山と溪谷社 1985 (1995 2版21刷)
「原色日本野鳥生態図鑑(水鳥編)」中村雅彦・中村登流、保育社 1995
「北海道鳥類目録改訂2版」藤巻裕蔵、帯広畜産大学野生動物管理理学研究室 2000
「野鳥ブックス2 フィールドガイド日本の野鳥」高野伸二・谷口高司・森岡照明・叶内拓哉、(財)日本野鳥の会 1982 (1994

増補版7刷)

「増補改訂版 日本鳥類大図鑑 Vol. I」清棲幸保、講談社 1978
「北海道の希少野生生物 北海道レッドデータブック2001」北海道 2001

「知里真志保著作集 別巻I 分類アイヌ語辞典 植物編・動物編」知里真志保、平凡社 1976

魚類

底生動物

両生類
爬虫類

トンボ

チョウ

樹木

(在来種) 草花

(外来種) 草花

哺乳類

(水辺) 鳥類

(草原・樹林) 鳥類
ワシ・タカ